

## A-I-2 ラット母親の松果体除去が仔の脾臓に及ぼす影響

○田中 大、加地 隆  
弘前大・第二解剖

胎仔及び生後早期の乳仔の松果体はメラトニンをほとんど産生せず、母親のメラトニンは胎盤や母乳を介して胎仔や乳仔に移行しうることが報告されている。今回我々は、ラット母親に対する松果体除去 (PX) を行い、仔の脾臓に対する影響を調査した。恒温 ( $22 \pm 2^\circ\text{C}$ )、24 時間明暗周期 (明期 07:00~19:00) 下で飼育した雌性ウィスター系ラットに対し、生後 35 日期に PX または対照手術 (SX) を行った。正常雄性ラットと交配し、出産仔をそれぞれ PX-M 群、SX-M 群とし、生後 15 日期において脾臓重量を、生後 10 日期において脾臓重量と胸腺重量を測定した。また、生後 10 日期の脾臓は、Bouin 液で固定し、脱水後パラフィン包埋し、厚さ  $7\mu\text{m}$  の切片を作製、H-E 染色を行い光学顕微鏡で観察した。生後 15 日期、生後 10 日期のどちらにおいても、PX-M 群の脾臓重量は SX-M 群のそれに対して有意に減少していた ( $P < 0.001$ )。組織学的には、PX-M 群では SX-M 群に比較して、脾臓の大部分を占める赤脾髄の領域が減少し、逆に白脾髄は良く発達しているのが観察された。赤脾髄は両実験群共に脾索における造血組織がその大部分を占めていた。胸腺重量は PX-M 群において有意な増加を示したが、胸腺及び白脾髄についてはさらに今後の検討を要する。結論：ラット母親の松果体ホルモンは、仔の脾臓、おそらく赤脾髄の造血組織の発達に促進性的影響を及ぼす。